

FF式石油温風機

(密閉式石油ストーブ)

工事説明書 品番 OK-P383 OK-P382

販売店さま用

この工事説明書は、工事業者が正しく安全な工事をする為に必要な手順です。設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据え付けてください。なお、この工事説明書は取扱説明書と一緒に必ず保存してください。(設置工事後、お客様にお渡しくさい)

- ### 安全上のご注意(必ずお守りください)
- 施工される人への危害・物的損害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、設置工事において必ずお守りいただくことを次のように説明しています。
 - 表示内容を無視して誤った工事をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。
- | | |
|----|--|
| 危険 | この表示の欄は、「作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される」内容です。 |
| 警告 | この表示の欄は、「作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される」内容です。 |
| 注意 | この表示の欄は、「作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される」内容です。 |
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
- | | |
|--|----------------------------|
| | この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。 |
| | この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。 |

危険

ガソリン厳禁

ガソリン、混合油(農機具用)など揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。灯油(JIS 1号灯油)を使用してください。(OK-P383)

給排気筒を確実に接続する

給排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください。風、振動、衝撃などで外れたりすると運送中に排ガスが室内に漏れて危険です。

集合煙突利用の禁止

排ガスが室内に出たり、異常燃焼を起こしたり結露水が凍結したりして、事故のおそれがあります。

床下給排気筒禁止

必ず屋外に排気してください。排ガスが室内に漏れて、危険です。

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る

製品、油タンク、給排気筒の据付けは、規則を守らないと火災の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや交流100V以外での使用はしない

たご定配線などで定格を超えると発熱による火災の原因になります。

ガソリン厳禁

ガソリン、混合油(農機具用)など揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。灯油(JIS 1号灯油)を使用してください。(OK-P382)

警告

据付けや移動は販売店へ依頼すること

お客様ご自身で据付工事され、不備があると感電や火災の原因になります。

変則工事は絶対にしない

変則工事の例

- 給排気筒をつけない
- 給排気筒を屋外に出さない
- 給排気筒を屋外に出さない
- 給排気筒を屋外に出さない
- 給排気筒を屋外に出さない
- 給排気筒を屋外に出さない

このような変則工事をすると、排ガスが室内に出て、一酸化炭素などが発生し、中毒になるおそれがあります。

給排気筒トップは閉そくしない場所に設置する

積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪阻い」は、給排気筒の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

屋内給排気筒禁止

必ず屋外に排気してください。排ガスが室内に充満し、危険です。

給気・排気部材は「ナショナルFF式石油温風機」専用のものを使う

(新しいものを使ってください)異常燃焼や排ガス漏れの原因になることがあります。

この工事説明書、別売部材の説明書に従って工事をする

守らなかった場合、予想しない事故が発生するおそれがあります。

電源コード、電源プラグを破損するようなことはしない

傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因になります。

注意

次の場所には据付けしない

- 火災や予想しない事故の原因になります。
- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を乗せた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所又はたまたま場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段・避難口などの付近で避難の支障となる場所
- 温室・飼育室など人のいない場所

油タンクとの距離を離す

●油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火壁を設けてください。- 屋内用据置式の油タンクは不燃材の床の上に据え付けてください。
- 屋内タンクをご使用の場合、油タンクとストーブとの距離を2m以上取るため別売の送油ホース(OK-B07K 長さ2.5m)をご使用ください。

本体が壁に固定できない場所には据付けしない

地震のとき転倒し、火災の原因になることがあります。

給・排気筒の延長は長さ3m、曲がりは3か所以内にする

異常燃焼や排気の結露による凍結・水漏れの原因になります。

可燃物との距離を離す

12.5 cm以上

10 cm以上

150 cm以上

★保守、点検を容易にできるようにするために、できる限り図の据付列の距離を確保するようにしてください。ただし、火災予防上安全な距離として下表に示す近接設置が可能です。

(上方、両側方の3方が阻まれていない場合は背面を点検するため最少くとも3方のうち1方に30 cm以上の距離が必要です)

防火性能認証による可燃物との距離			
側方	後方	前方	上方
5 cm以上	10 cm以上	100 cm以上	25 cm以上
			OK-P382
			OK-P383

●可燃物(木壁、合板壁、ふすまなど)から上図に示す距離をとってください。

●付属の置台を据付面においてご使用ください。

送油ホースは屋外で絶対に使用しない(極端に曲げた状態での使用もなし)

ヒど割れにより油漏れの原因になります。

- 屋外は銅、鋼管を使用してください。
- 送油ホースは定期的な点検し、2年に1度は交換してください。

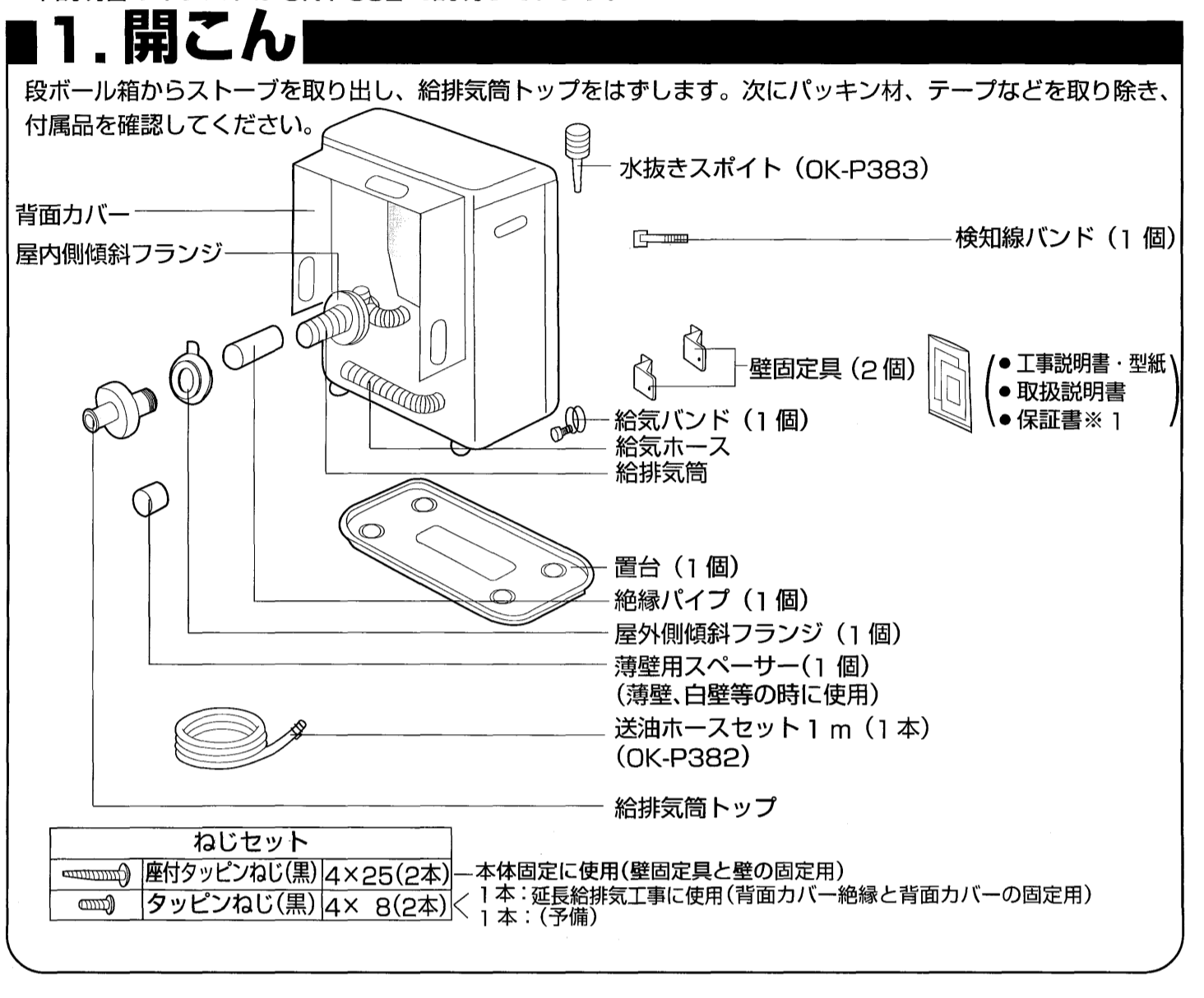
改造使用の禁止

改造して使用しないでください。またストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けしないでください。

火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

手袋などの保護具を着用して工事をを行う	必ず試運転を行い、安全を確かめる
工事後に給排気筒の点検をする	
可燃物近接禁止	接続部のゆるみ点検
3 m 3 曲がり以下のこと	配気管は壁から 2 cm 以上離れていること
給排気筒トップと開口部との距離を離す	危険物近接禁止

※本説明書のイラストはOK-P382で説明しています。



2. 据付け

据付け場所の選定

- 性能をそこなわないための空間が取れる場所
- 耐火構造であっても、可燃物との距離が取れないような設置場所(マントルピースや凹部)への据付けはしないでください。

■電源コンセントの位置

- コンセント(交流100V 15A)を使用できる位置。(電源コードの長さは2mです)
- 歩行者が電源コードを引っ掛けられないような位置。

据付け方法

- 置台の取付けと水平設置
- 本体の固定
- 風向板の調節
- 油タンクの据付けと送油ホースの接続 (OK-P382)

- 置台の取付けと水平設置
- 本体の固定
- 風向板の調節
- 油タンクの据付けと送油ホースの接続 (OK-P382)

■既設の油タンクを使用する場合、油タンクのフィルター掃除や水抜きを確実に行ってください。

■送油配管にごみなどがあると、本体の定油温機のフィルターがつまり、送油量が減少することがあります。また、送油配管に水があると凍結し、送油が十分に行かない場合があります。新しい送油管にするか、送油配管内の掃除と水抜きを行ってから、配管してください。

油タンクの据付け

- 油タンクは本体と同一床面に相当する高さか、右図の寸法に従って据付けしてください。

屋外用タンクの場合

- 屋外用の送油配管については販売助成物の「据付工事部材マニュアル」に従って施工してください。
- 銅管、銅管保護パイプがメタルラス張り、ワイヤラス張りの壁を貫通する場合、壁貫通部に絶縁テープ等を巻いて電氣的絶縁を施してください。

送油ホースの接続

- 送油ホースを油タンクの接続口(屋外用タンクの場合は壁付コック等の接続口)に十分差し込み、ホースバンドで固定してください。
- 送油ホースの先端に灯油をつけて挿入しやすくなります。
- 送油タンク側のバルブを少し開け、送油ホース先端まで灯油が確実に流れてくることを確認してください。送油ホース内に空気溜りがあると灯油が流れず点火不良の原因になります。空気抜きは油タンク側から、送油ホースを順次たぐっていくとできます。
- 床下に灯油をこぼさないように受皿等を用意し、慎重に行ってください。
- 送油ホースを本体の接続口に十分差し込み、ホースバンドで固定してください。
- 送油ホースを途中でL形になったり、もつれたりしないよう整理してください。

※本体の送油ホース接続口についていたキャップは、接続口の側にあるキャップ受にかけておいてください。本体を取り外すときに必要です。

3. 給排気筒(管、ホースなど)の取付け

給排気筒の取出し場所の選定

給排気筒の標準取付け寸法

- 給排気筒は外気に通じる壁または窓に取り付けてください。
- 床下に排気しないでください。
- 次の場所には給排気筒を取り付けしないでください。

- 給排気筒の近くに危険物や障害物のあるところ
- 人通りの激しいところ
- 積雪の多い地域では、雪や風の吹きだまりになるような場所やつららの真下になるような場所
- 壁の中に電気配線、ガス・水道配管、すじかいがある位置
- 集合煙突の利用

■給排気筒の標準取付け寸法

- 給排気筒は、他の燃焼機器の排気筒から1m以上離して設置してください。

■給排気筒の種類及び呼び用途別

用途別	運動用Oリング
材料別	4種O
呼び番号	P39
給排気筒の型式の呼び	PL-11

標準給排気方式の場合

標準給排気方式(壁直結)は付属品の「標準給排気筒セット」(標準対応壁厚135mm～260mm)を使用した取付け方式です。

標準給排気方式以外にも設置場所によって、別売部材で窓などを利用したり、排気管と給気ホースを延長したり、厚壁や薄壁に対応して取り付けることができます。

- 取り付けかたは別売部材に同こんの説明書にしたがってください。
- 給排気筒の延長限度は3mで曲がりは3か所以内です。
- 排気管外れ検知装置を正しく働かせるために

- 給排気筒の端子台に必ず排気管検知リード線を接続してください。
- 排気管の接続部には、排気管固定金具を取り付け、確実に電流が流れるようにしてください。
- 延長給排気筒の場合、同こんの背面カバー絶縁を必ず背面カバーのノックアウト穴の周囲に取り付け、排気管と背面カバーの電氣的絶縁をしてください。特に延長給排気筒の設置では、販売助成物の「据付工事部材マニュアル」に従って、接続部の確認を行ってください。

- 紙型(工事説明書の裏面)の貼付
- 穴あけ
- 給気ホースの接続
- 給排気筒の調節

- 絶縁パイプのセット
- 本体の移動
- 給排気筒トップの固定
- 固定具でストーブを壁に固定

●絶縁パイプを壁の厚さに合わせ、ノコギリ等で壁の厚さより長くならないように切断してください。

●切断した絶縁パイプを給排気筒にかぶせ、屋内側傾斜フランジに固定してください。

●ラス張りの壁貫通時には、絶縁パイプを必ずセットしてください。

●本体を壁面に寄せてください。

●屋内側傾斜フランジの「屋内上」が上にくるように回してください。(逆に取り付けたら雨水が室内に入り込むことがあります)

給排気筒トップの固定(壁厚135mm～260mmの場合)

- 屋外用傾斜フランジを給排気筒トップに挿入してください。
- 屋外用傾斜フランジには、シールパッキンが貼り付けてあります。
- 屋外用絶縁パイプの中に給排気筒トップのねじ部を挿入し、給排気筒トップを右に回し、給排気筒に締め込んでください。
- 屋外用傾斜フランジの「屋外用上」を上にして、給排気筒トップをしっかり締め付けてください。
- 屋内側・屋外用傾斜フランジと壁面に隙間があると、排ガスが隙間から室内に入り、臭いの原因になります。

給排気筒トップの固定(壁厚135mm以下外壁が白壁や汚れやすい色・材質の場合)

- 給排気筒トップに薄壁用スベラー、屋外用傾斜フランジの順に挿入し、上記の手順で給排気筒トップをしっかり締め付けてください。

固定具でストーブを壁に固定(本体の左右2カ所)

- 付属の壁固定具を背面カバー横の長穴(両側)に引っかけてください。長穴は5個ありますが、1つ選んでください。
- 木または薄い合板の壁に固定する場合は、壁固定具を用いてねじで直接壁に固定してください。
- モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込み、壁固定具を用いてねじで固定してください。
- 石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込み、壁固定具を用いてねじで固定してください。
- 土壁・しっくい壁などのように壁固定具が直接取り付けられない場合は、壁にそえ木のように壁固定具を取り付けてください。

壁固定具

座付タッピンネジ(黒)

中空壁用プラグ

木または薄い合板

石膏ボード、薄い合板

コンクリート用プラグ

そえ木

モルタル、コンクリート

土壁、しっくい壁

4. HAの配線 (HAを使用する場合)

ツイストペア線 HA で配線される場合は別売部材のFF用 HA 接続コード (OK-BHA4 (金具付セット)) と JEMA アダプター (HK-AJ110) を用意し、同こんの工事説明書に従って、工事を行ってください。

5. 試運転

標準・延長による調節について

標準高500mm未満、給排気が1.5m未満の延長の場合は、この調節は不要です。

- 電源プラグをコンセント(交流100V)に差し込んでください。
- 次の手順にしたがって、標準の設定と延長給排気の設定をしてください。

- 電源スイッチを「切」にする。
- 「時刻合せ」[切タイマー] ボタンを同時に7秒間押し。

…「ピッ」とブザーが鳴る。デジタル表示部に \odot \odot を表示。

標準設定: ⊖ボタンを押し、表示:「0」…… 500 m 未満

延長設定: ⊕ボタンを押し、表示:「1」…… 1.5～2.5 m 未満

のいずれかの標準に設定する。

表示:「10」…… 1000～1500 m 未満

(ボタンを押すごとに表示が0→5→10→0…と変わります)

- 延長設定: ⊕ボタンを押し、表示:「0」…… 0～1.5 m 未満
- 表示:「1」…… 1.5～2.5 m 未満
- 表示:「3」…… 2.5～3 m 未満

のいずれかの延長給排気長さで設定する。

(ボタンを押すごとに表示が0→1→3→0…と変わります)

- 電源スイッチを「入」にする。
- 以上の操作で調節完了です。

試運転

試運転はお客さまと立ち会って行ってください。

- 運転準備
- 運転

●油タンクに給油し、油タンクと送油管接続部から油漏れがないか確認する。

●定油温機セット/バーを2～3回押し下げる。(OK-P382)

●コードホルダーを開き、電源コードをのばし、電源プラグをコンセントに差し込み。

●電源スイッチが「入」になっていることを確かめてください。

※電源コードは使用時には東へないでください。

- 運転

1. 運転スイッチを押す

- 運転ランプ点灯。

2. 設定温度を室内温度より高くする。

部屋の温度が設定温度より2℃高いと燃焼しません。

- 約5～6分後に燃焼を始めます。
- 燃焼を始めてから約1分後に温風がでます。
- 温風吹出方向が適度であるかどうか確認してください。
- はじめにお使いになるときは塗料の焼きつくにおいと温風吹出口より煙が出ることがありますが、熱交換器の塗装やパッキン類が焼けるため、異常ではありません。
- 数10分で消えますので、換気をしながら運転してください。しばらく使用しますとなくなります。

3. 運転スイッチを再度押す

- 運転ランプが消え、消火します。
- 本体内部の温度を下げるために、約7分間送風します。

廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。